

スマートフォンの日々

目代純平

子ども達が使う②

smart life
with
smartphone

振り回される「日常」を 自己管理するしかない

早いものでこの連載も11回となりました。これまでスマートフォンに関する様々な話題をご紹介してきましたが、この1年弱の間にもそのシェアは広がり続け、現在では携帯全体の65%を超えるくらいになってきたと言われています。簡単にいえば従来の携帯電話（ガ



今年6月に発売予定のdocomoのガラスマホ「SH-06G」

ラケー）がどんどんと多機能化し、性能が上がって大画面化したのがスマートフォンですから、利用者のニーズを汲んだ結果の当然の進化なのかもしれません。

17年に生産中止？ ガラケーは大丈夫

ここところスマートフォンが2017年に生産中止になる」というニュースが飛び込んできました。このニュースを聞いて「もう従来の小型で二つ折り、数字のボタンがついたシンプルな携帯電話は買えなくなってしまう！」と慌てて慌てた方が多くいるようですが、無理はありません。これは報道の仕方に少々問題があるからです。

確かに、以前のケータイで使用されていた基本ソフト（OS）を使ったケータイの生産は終了するようですが、その代わりに現在スマートフォンで主流のOSであるAndroidやその他の新しいOSが採用されるだけで、従来のシンプルな携帯電話がなくなるわけではないのです。

前々回にご紹介したAUから発

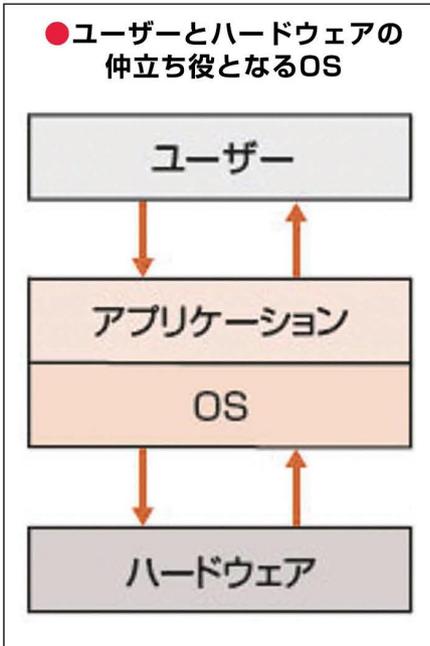
売された通称「ガラスマホ」がまさにその新しい型の携帯電話ですが、見た目は従来の携帯電話のままで。機能をシンプルにして必要最小限に絞っているため、新たなアプリのダウンロードやGoogleのアカウントを登録することはできませんが、その分動作も安定しており、使い方も難しくないといい触れ込みです。この原稿を書いている間にdocomoからも同様の「ガラスマホ」が発売されるといふ発表がありました。これも同じものです。

評判が「いまひとつ」 「ガラスマホ」の動作

ただ、実際にこの「ガラスマホ」を使っている方の評判は今のところあまり芳しくないようです。まだ初期ロットなので性能が安定してないと予想されますが、電池の持ちや動作に問題があるという声が多数あります。もともとスマートフォン用だったOSの機能を絞って新し

く創り出した端末なので、今後ニーズがあるようなら改良が進められるでしょうし、そうでなければもう同様の形では継続しないかもしれません。Android自体も比較的新しいOSなので、今後「ガラスマホ」にAndroidを採用するかどうかはまだ検討の余地があるのでしょうか。

OSというのはパソコンで言えばWindowsやMacのようなもので、もともとパソコンに入っている基本的な機能のベースになるものです。スマートフォンを含めたコンピュータはこのOSがないと基本的には動作しませんが、逆にOSだけではほとんど何もできません。このOS上で動作させるのが応用ソフトといわれるもので、一般的にはソフトとかアプリ



OSの立ち位置と役割 マイナビニュースより引用

とか呼ばれるものですが、携帯電話やスマートフォンの上では電話を受けたりかけたりするものからメールの送受信、カメラの機能まで全て独立した「アプリ」が動いており、それぞれの機能を提供しています。

ですから、逆に言えばOSはなんでしょう、その上でこれらのアプリが正常に動作する環境であれば全く問題はないわけで、突き詰めてしまえば我々ユーザーにはOSがなんであろうと実はあまり関係

子ども達とLINEの課題

前回中高生における実際のアンケート結果をご紹介しましたが、今回は主にこれらの事項に関するフィードバックと関連した状況をご紹介したいと思います。これらのアンケートは最近私が中学校や高校での講演をする際に事前にお願しているもので、主にスマートフォンやインターネットを使っていくなかで実際に困ったり悩んでいることについて答えてもらっています。

「机に置かないで」 勉強に集中できない

やはり自分の身近なことなので

がないということです。パソコンで言えばWindowsやMacでは全体の操作感が若干違いますが、メールやウェブサイトの閲覧、写真の表示など全く同様の機能が使えることと同じです。

ということ、「ガラケー生産中止」という記事は非常にセンセーショナルでしたが、今後もニーズがあるようなら、メーカーはシブシブな携帯電話の生産は続けるでしょうから、そんなに心配をすることではないのです。

皆さん関心が高く、毎回たくさんのお悩みごとや質問が寄せられます。講演の中でも私が一方的にしゃべるのではなくてところどころこのようなアンケートの結果やそれに対する答え、開設などを入れていくと双方の講座となり、学生の皆さんも興味を持って聞いてくれます。

まずは、最近のアンケート結果より「ケータイ・スマートフォンを使っていて実際に悩んでいることは何ですか？（全般的なこと）」という質問には次のような回答がありました。

- ・ ついつい使いすぎてしまう。
- ・ 勉強が手につかない。集中できない。

・ 勉強中も机にスマホを置いてい
るので集中できない。

・ あまりにも通知が多すぎる。

魅力のコンテンツ 歯止めが利かない

これらに関しては、悩みは大人も子どもも同じようです。スマートフォンにはあまりにも魅力的なコンテンツが多く、アプリを入れれば様々な用途に使えるため、歯止めが利かないことに子どもたちも悩んでいます。特にLINEなどのメッセージはいつでもリアルタイムに飛び込んでくるため、気になって勉強が手につかないというのです。

そして、子どもたちがよく使うLINEのグループ（何人かでグループを作り、その全員で会話ができる機能）では、そのうちの誰かしらが発言をしたらそれ以外の全員に通知されるため、その量はど
うしても多くなりがちです。

高校生の女の子の中には1日500〜1000通のメッセージをやりとりするという子もいました。

主なLINEのキャラクター：
会話の中でこれらのキャラクターを使って表情を伝えることができる



Chipstar LINEキャンペーンの例：
Chipstarを購入するとふたの裏側にシリアルナンバーが印刷されているので、それをLINEで入力すると期間限定のオリジナルスタンプがプレゼントされる



また、最近ではいろいろな会社や製品とのコラボレーション企画で「何か商品を買ったらおまけ

無料で出来るのは スタンプが収入源

そして、彼ら彼女らはこれらの状況に慣れてはいるものの、実は通知があまりにも多すぎることや自分の時間がどんどん浪費されていることに悩んでいる実態もあるのです。

子どもたちも何となく成り行きや「みんなが使っているから」という理由でLINEを使っています

が、使いながら「それがなぜ無料で使えるのか」ということに疑問を持つていたりします。確かにあれだけ便利で友だちとリアルタイムに連絡が取れて、いつもつながっているのは何か裏がありそうな気がしますよね。

あまりにも日常に溶け込んでしまい、今のところ特段の問題もないのでそのまま使っているという人がほとんどだと思いますが、ち

やんとLINEの会社は収益を確保しています。そうでないとサービスが存続できませんから当然です。LINEの収益源は主に2つあります。一つはスタンプと呼ばれる、いろいろな表情を表す絵文字のような役割をする画像を販売していることです。このスタンプにはコニーやブラウンと呼ばれるLINE独自のウサギやクマのキャラクター（これらも結構人気があります）のほか、ドラえもんやくまモンなど有名なキャラクターも含めて非常にたくさんあり、これらのセット（大体20〜30ぐらいの違う表情が入っている）が100円で販売されています。これらは一度購入すればずっと使えるので意外にも購入して使っている人は多いようです。単価が安いので気軽に買えますが、これも数が増えればかなりの金額になりますよね。



にスタンプをプレゼント」や、「企業のアカウントを『友だち』に追加したらスタンプをプレゼント」などというのも増えており、これらの広告費ももちろんLINEの収入になります。

「ゲーム」と呼ばれる「LINE POP」、ディズニーツムツム」に代表されるようなLINEが提供しているソーシャルゲームです。これらは他社のソーシャルゲームと同様、非常に人気があり、LINEを使っている人のほとんどは何らかのゲームもしていると言っても過言ではないぐらいです。

もう一つの大きな収入源は「LINE

と連動し

ほかの

LINE仲間と点数を競った

りすることもでき

るので、

そのよう

なところ

から射幸

心を煽ら

れ、ハマ

ってしま

う人が多

いと推測

されます。

スマート

フォン上

LINE

のソーシャルゲームのほとんどは、最初無料で遊ぶ、その後多く遊びたい場合はお金を払ってその権利（クレジット）を購入する「フリーミアムモデル」を採用しているもので、ハマればハマるほどお金が多くなる仕組みです。

つまり、LINEの運営会社はこれらの仕組みで収益を確保しているため、メインの機能である会話、通話の機能は無料で提供できるわけです。

大量配信は低料金 標的にされると…

これも子どもたちのみならず大人も非常に困惑していることです。迷惑メールの歴史は決して浅くありませんが、未だに減らないばかりか逆に増えているぐらいです。迷惑メールの配信業者がそれらを大量に配信するのは、ダイレクトメールなどに比べて配信料金が桁違いに安い（あるいはタダ）。

それらを何百万通、何千万通送ったとしても、そのうちの数人でその商品やサービスを購入してくれば充分収益が確保できるからです。送られる側はたまりません。一度メールアドレスが標的

にされると夜中であろうが時間も構わず大量に配信されるのでメールボックスが迷惑メールで一杯になってしまい、その削除の手間はおろか、度重なる受信動作で電池も消耗してしまい、よいことは一つありません。

97%が迷惑メール ウイルスの汚染も

現在全世界で流通しているメールの97%は迷惑メールだと言われています。つまり我々が普段仕事や通常の連絡で使っているメールは全体のたったの3%しかないということです。これはとんでもないことですし、最近ではあまりにも大量の迷惑メールが配信されたことよってメールサーバーやその間の経路がパンクしてしまい、様々な企業の業務に支障が出るというようなことも度々起こっています。

また、単なる広告などの迷惑メールなのか、ウイルスなのか見分けが付きにくいようなメールが配信されるのも最近の傾向です。このようなものの中には記載されているURL（アドレス）をクリックするとウイルスに感染したり、そうで

なくてもこちらがメールを見たことを感知されて、その後おびただしい量の迷惑メールが来たりすることがありますので、興味本位でクリックしたりしないようにすることが大切です。

皮肉にも見直され SMSの人気復活

これらの迷惑メールの対策は少しずつ進んではいるものの、その設定が複雑であったり、誤認識(必要なメールが迷惑メールと誤って分類されて捨てられてしまったり、迷惑メールが正常に分類されなかったりする)されたりすることがあり、完全な対策は困難なのが現状です。

あまりにも迷惑メールが多いので、最近ではLINEやFacebookが普及してきたこともあり、連絡用にはそちらを使い、通常の携帯メール (xxxx@docomo.ne.jpやxxxx@softbank.ne.jpなど) は全く使わないという方も多くなってきました。

また、迷惑メールがないため、以前はよく使われていたショートメールサービス(電話番号で70文字程度のメッセージが送れる有料

サービス)が見直されており、そちらを代わりに使うという方も増えてきています。迷惑メールの増加に伴って送れる文字数も少ない旧サービスの人気が復活するとはなんとも皮肉な気がしますが、それだけ迷惑メールは厄介なものなのです。

時間の無駄のなか 困惑し止めたいが

ここまではケータイやスマートフォン全般の悩みごとでしたが、昨今前述のLINEが中高生の標準的な通信ツールになるに従って、それに特化した悩みごとも浮かび上がってきました。

次は「実際にLINEのことやその使い方に関して悩んでいることは何ですか?」という質問に対する答えです。

- ・既読をつけてしまうといういろいろな倒くさいことになる。
- ・どこで会話を切っていいかわからない。

- ・LINEで1日に100通以上メッセージが来る。
- ・LINEで時間を無駄にしている。
- ・返答が多すぎて勉強したくてもなかなか話が終わらない。

- ・LINE自体が面倒なのでLINEをなくしてほしい。

LINEのなかった時代に戻りたい。これらが実際に中高生から寄せられた悩みごとですが、若干の変動はあるものの、どこの学校で聞いてもほぼ同様の答えが返ってきます。それだけ、LINEが身近なツールになってきているということです。子どもたちもその使い方に関して彼らなりに困惑していることが伺えます。

小学生が授業中に 居眠りする事態に

LINEにはその機能として相手がメッセージを読んだ場合に「既読」という表示がつくようになっていきます。これは、相手が読んだかどうか確認するためには便利なのですが、子どもたちの間ではメッセージを読んだのに返事を返さないことを「既読無視」や「既読スルー」と呼び、新たなじめや仲間はずれの対象になっています。

そのために、メッセージが来たらすぐに返信をしなければいけないという強迫観念に駆られ、常にスマートフォンを傍に置き、確認しなければならない。そのため勉

強が手につかないというような集中力の低下やこのことが結果的に依存症につながる懸念があります。

これらのメッセージのやりとりを繰り返した結果、会話の終わりが分からずに気がついたらだらだらと夜中の2時、3時までたわいのない話をし、睡眠不足から学校で体調を崩して保健室で寝ていたり、小学生ですら授業中に居眠りをする子どももいると聞きますが、これはとても正常な状況ではないと思います。

最近ではこれらの回答の最後にあるように、「LINE自体が面倒なのでなくしてほしい」とか「LINEがなかった時代に戻りたい」などといった非常に切実なものが増えてきており、このような意見もこの学校でも必ず聞かれます。それほど子どもたち自身も苦悶し、その悪循環から抜け出したいのですが、多くの友だちとそこでつながっているため、自分だけ抜けられないという事情があり、さらに苦しんでいるのです。

自分たちを「縛る」 ルールを作りがち

LINE自体はとても便利なツ

ルですし、現在では子どもだけでなく大人も活用するようないわば標準的な機能の一部となってきましたが、まだコミュニケーション力が未成熟な子どもたちはそこに過度な「つながり」を求めたりし、その結果自身で自分たちを縛るようなルールを作りがちです。

特に中高生の時代は勉強や読書だけでなく、その他のことにもたくさん時間を使うべきなのに、その貴重な時間をスマートフォンやLINEのたわいない会話に費やされるのはとても愚かなことです。

LINEの使い方はこのところ各地で問題になっており、現在私のところには頂く質問の第一位となっていますが、これは子どもたち自身が自覚して使用時間のけじめをつけて使うほかはありません。彼ら自身がそれで時間を無駄にしていることに気づき、節度を持った使い方をすれば大切な時間も確保できますし、依存症にならずにすみます。

これは大人でも同様ですが、自己管理ができずだからと流されて使うような人が結果的に依存症となりその悪循環にはまっていくのです。これからの時代は子ども

のころからこれらの機器に触れることが多くなりますから、やはり最初から節度を持った使い方を教えていくことが何よりも大事だと思っています。

信州大学長のスピーチ

「スマホやめますか」 誤解しないように

今年の信州大学における入学式の学長スピーチで、「スマホやめますか、それとも信大生やめますか」というような発言があり、話題になりました。

この発言を取り上げて新聞などのメディアで賛否が話し合われており、中には「21世紀のIT時代に時代錯誤も甚だしい」などと批判する人がいましたが、これはこの部分のみを抜き出しているのです。問題があるのです。

信州大学のホームページに学長あいさつの全文が載っていますが、当然前後の脈絡があります。

どちらかを選べ、というのはいくらか短絡的ではありますが、学長は最近の学生があまりにもスマートフォンに夢中になってそれに多くの時間を費やしていることを憂いており、やはり学生という限ら

れた時期を勉強や読書、友との語らいや交流などに存分に時間を使つてほしいということを伝えただけです。

読書や会話したり

抜け出していろいろ

今回は子どもたちのスマートフォン使用の実態やリアルな悩みごとに関してご紹介してきましたが、誰にとっても時間は有限であり、1日24時間しかありません。スマートフォンやインターネットが登場してからもそれは変わらないわけで、それらを使うのに費やす時間が増えた分、減った時間もあるはずで。

テレビを見る時間が減った人、本や新聞を読む時間が減った人、睡眠時間が減った人などそれぞれだと思いますが、それによって睡眠時間や本を読んだり勉強をする時間が減ったというのはいくらも好ましい状態ではありません。

もちろん、スマートフォンのコンテンツで読書をしたり勉強や調べ物をしたりすることもあつていいでしょう。しかし、まだ電子書籍になつていない大半の本を読んだり、仲間と語り合つたりとスマートフ

オン以外のところでもできる活動はたくさんあり、それらは必ず人生の糧になつてくるのです。

いろいろなことに使えて便利なスマートフォンですが、これからはその使い方をきちんと管理していく人がいろいろな意味で人生の成功者になるはずで、特に使用時間に関しては自己管理を徹底してバランスよく使っていくことが本当に必要な時代になってきました。テクノロジーは刻々と進化していきますが、その産物である様々な機器に使われるのではなく、便利に利用することが重要です。いつでも主体は人間なのです。

著者略歴 ● もくだいじゅんぺい

1976年10月28日生まれ、東京都出身。大学4年在学中にチェックフィールド株式会社（現在代表取締役）を興す。中小・中堅規模法人向けのIT運用コンサルティング、運用管理代行を中心に行う傍ら、「安全なケータイ・インターネットの使い方」をメインテーマに講演活動。著書に「子どものための『ケータイ』ルールブック（総合法令出版；2012年）」。
東京都認定eメディアリーダー